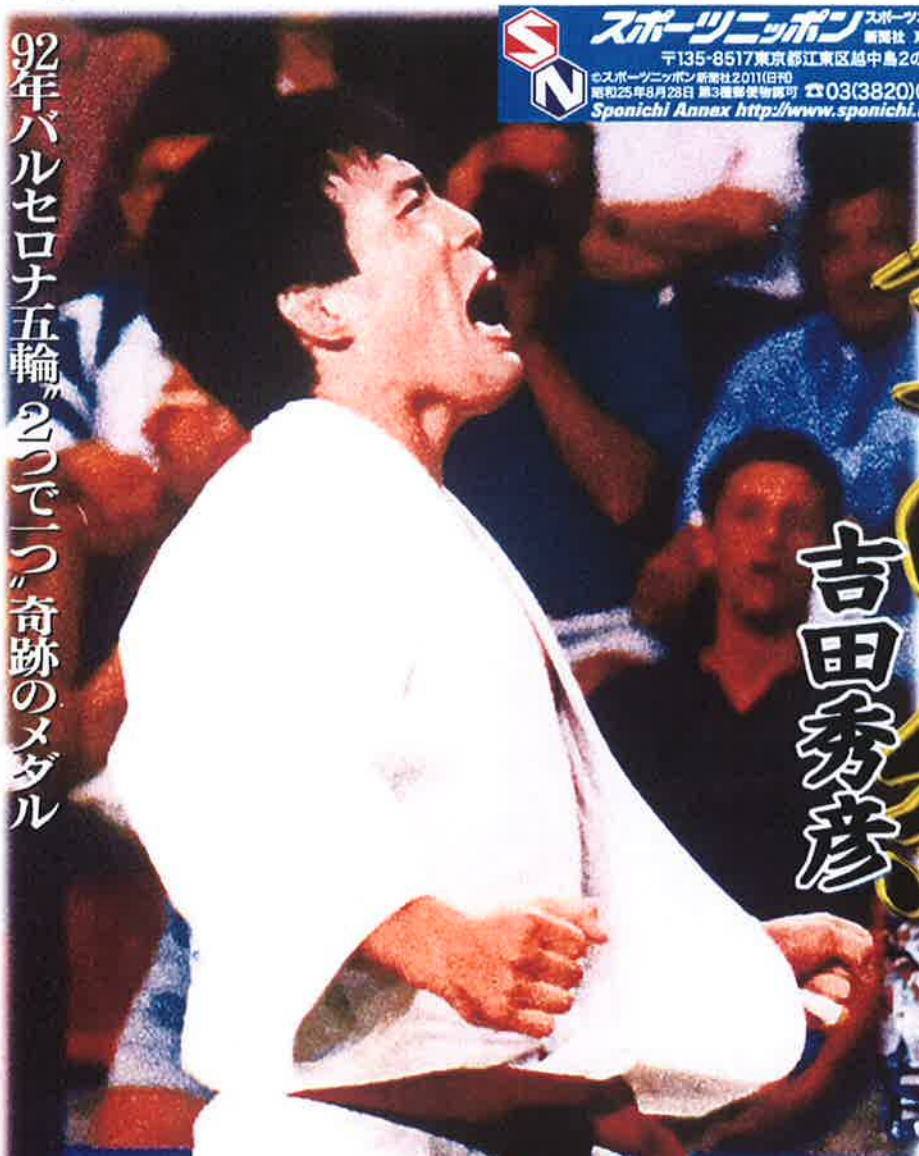
スポーツニッポン　スポーツニッポン新聞社 東京本社
〒135-8517東京都江東区越中島2の1の30
©スポーツニッポン新聞社2011(日刊)
昭和25年8月28日 第3種郵便物認可　☎03(3820)0700
Sponichi Annex http://www.sponichi.co.jp/

スポニチ アーカイブス　10月号

92年バルセロナ五輪"2つで一つ"奇跡のメダル

古賀稔彦 金の絆

吉田秀彦



3本の赤旗が上がる前から、古賀稔彦の目と体は震えていた。両拳を低い位置で握りしめながら上げた雄叫びは、遠くバルセロナから日本まで響いてくるようだった。

あの試合、あの事件を振り下ろす

「スポニチ・アーカイブス」の10月号は、1992年のバルセロナ五輪柔道男子71キロ級で、試合直前に左膝を痛めながら、金メダルを獲得した「古賀稔彦の11日間」を取り上げる。

7月20日、バルセロナ入り翌日の初練習。古賀は、同78キロ級代表の吉田秀彦との稽古中に左膝を痛めた。左内側側副じん帯損傷。全治1カ月といわれた重傷だった。

日本選手団主将にも任命された最大の金メダル候補を襲った不運。五輪開幕まで4日、試合が行われる7月31日まで11日しかなかった。全日本男子監督の上村春樹（現全日本柔道連盟会長、講道館館長）も、担当コーチの吉村和郎（現全柔連強化委員長）も、金メダルはおろか、試合出場すら諦めかけた。

だが、古賀だけは諦めなかった。4年前のソウル五輪。優勝候補筆頭といわれながら3回戦で敗れて以来、この日のために厳しい練鍛を積んできた。妥協のない準備をしてきた。ケガで金メダルを諦めることはできなかった。

7月30日。柔道私塾「講道学舎」で古賀の2年後輩となる吉田が、不振の男子柔道で初の金メダルを獲得する。そして、翌日の古賀の優勝で、2個の金メダルは、一つの奇跡として結実した。

大見出しの「一生精進　常に前進」は、現在は柔道私塾「古賀塾」で指導者としての精進を続ける古賀の座右の銘。国際化の流れの中、JUDOに浸食されつつあった柔道ニッポンを救ったバルセロナ五輪の2個の金メダルは、語り継ぐべき奇跡の物語でもある。

常在戦場

出場すら危ぶまれた直前の大ケガ
誰よりも努力してきた男は諦めなかった

一生精進

2～5面証言でつづる金メダルまでの軌跡――バルセロナの11日間　6、7面東京から北京まで　保存版ニッポン男子柔道栄光の歴史　9面バルセロナ彩ったなでしこたち
10、11、14～16面元横綱・大鵬さん「我が道」総集編　12、13面スポーツカレンダー
17面れっつ脳トレ　21面プレゼント　22、23面芸能裏話「覆面座談会」

「アーカイブス」「スポニチ」お申し込みはフリーダイヤル
0120・4612・10　24時間OK
スポニチ　または最寄りの毎日新聞販売店へ